

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム No.5 森で生きる野生動物の世界を見てみる

学校名	安芸市立土居小学校
学年・生徒数	2年生 17名
実施場所	高知県立のいち動物公園
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・山の自然に触れ合う事で、山の魅力を体感する。 ・身近な自然環境への関心を高め、森で生きる動物の生体に対する理解を深める。 ・森や山などの自然環境を大切にする心を育む。
関連教科	国語科
講師	・園内散策：教員 ・ビーバーレクチャー：のいち動物公園スタッフ
準備物	・児童：園の地図、メモ用紙、筆記用具、タブレット、弁当、水筒、帽子など

実施項目	園内の樹木や動物の観察、ビーバーレクチャー
対象プログラム	No.5 森で生きる野生動物の世界を見てみる
所要時間	約3時間（休憩含む） 園内散策：約90分、ビーバーレクチャー：約30分
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の目的等の説明 2. 園内の樹木や動物の観察（タブレットで撮影） 3. ビーバーレクチャー（座学、のいち動物公園の教育プログラム） <p>※後日、タブレットで撮影した動物について図鑑等で調べて動物カードを作成する。</p>
実施風景	<p>教員が児童に学習の目的や注意点などを説明した後、各自がビーバーやビーバー以外に調べたい動物をタブレットで撮影した。</p> <p>園内の木々には樹木名等が書かれたプレートがつけられている。「クスノキは“となりのトトロ”がいた大きな木。」「ウバメガシはどんぐりが生る木だね。」など児童が興味を持つ話しをしながら樹木の学習をした。（約90分）</p>



どうぶつ科学館に移動して、トイレ休憩と水分補給等をした後、ビーバーレクチャー（のいち動物公園の教育プログラム）に参加した。ビーバーは森を住処としている、木を歯で削って切り倒して水辺に巣を作る、ポプラの木や木の葉、ドングリも食べるなど、ビーバーの生態を通して森や川と動物の関係について学ぶことができた。（約30分）

ビーバーレクチャー終了後、ピクニック広場に移動し、芝生の上で昼食を食べた。児童等は、森がなくなったら動物達が生きられなくなる、自然を大切にしよう、などと話していた。



先生の感想

児童は、動物カードを作り、校内で掲示することを目標として、国語の「ビーバーの大工事」の学習を進めてきた。のいち動物公園では、児童は実際にビーバーが飼育されている環境を見学したり、説明を聞いたりすることで、学習内容をより深めることができた。

説明の際には飼育員の方から、ビーバーの歯の実物を見せてもらうことができた。お話を聞いたり、実物を見たりする中で、「こんなに小さい歯で木がきりたおせるがや」と児童の驚く姿が見られた。

また、学習後は、タブレットを使用し、ビーバーの動物カードを作成することができた。山の学習支援事業プログラムのおかげで、児童に貴重なビーバーの実物を見せることができ、学習を深化させることができた。

補足 その他、プログラ ムの特徴

- ・動物カードを作成した後、学校の廊下に掲示する。また、参観日等に成果物を掲示し、見ていただく予定。
- ・土居小学校は、1年生も山の学習を実施している。（万華鏡づくり、秋の自然を楽しもう）